

2018年度事業報告

I. 推進体制の強化

1. 組織基盤の強化

(1) 理事会

① 第4回理事会 (5月21日)

第2回通常総会で報告する2017年度事業報告と2018年度収支予算の報告を行った後、新規入会会員の件、顧問再任の件、第2回通常総会付議事項の件について審議を行い、異議無く承認された。

② 第5回理事会 (6月11日)

第2回通常総会終了後に開催。会長、副会長及び専務理事選任の件について審議を行い、異議無く承認された。その後、通常総会参加者に対し、新体制の発表を行った。

③ 第6回理事会 (11月15日)

新規入会会員の件、2018年度補正予算の件について審議を行い、異議無く承認された。また、2018年度上期事業報告や2019年度事業計画（骨子）の報告等を行った。

④ 第7回理事会 (2019年3月28日)

新規入会会員の件、第4期中期計画（中間検証）の件、2019年度事業計画・収支予算の件、第3回通常総会開催の件について審議を行い、異議無く承認された。また、2018年度下期事業報告等を行った。当理事会での承認による東北観光推進機構（以下、東観推）の会員数は216先となった。

(2) 総会

① 第2回通常総会 (6月11日)

2017年度事業報告と2018年度収支予算の報告を行った後、理事・監事選任の件、定款及び規程の一部改定の件について審議を行い、異議無く承認された。その後開催した第5回理事会（上記）において、小縣会長が選任され、新体制が発足した。

また前回同様、記念講演、懇親パーティを開催した。記念講演では、国文学研究資料館長のロバート・キャンベル氏を講師としてお招きし、「僕らが気づかない、東北でできる素敵なこと」という演題でご講演をいただいた。



第2回通常総会



第5回理事会



記念講演



懇親パーティ

(3) 行政観光戦略会議

① 2018年度第1回行政観光戦略会議 (7月24日)

東北6県・新潟県・仙台市の観光担当課長クラスの方々と共に、2018年度第1四半期事業報告のほか、2019年度事業の方向性、考え方について意見交換を行った。

② 2018年度第2回行政観光戦略会議 (10月23日)

東北6県・新潟県・仙台市の観光担当課長クラスの方々と、2018年度第2四半期事業報告、2019年度事業計画骨子のほか、2018年台湾感謝祭、2019年度トップセールス事業、東北への定期便誘致協議会などについて意見交換を行った。

③ 2018 年度第 3 回行政観光戦略会議（2019 年 1 月 17 日）

東北 6 県・新潟県・仙台市の観光担当課長クラスの方々と、2019 年度事業方針・事業計画骨子 2020 年目標のほか、2019 年度トップセールス事業・アフターフォロー事業、相互交流拡大委員会（仮称）準備会議などについて具体的な実施に向けた意見交換を行った。

④ 2018 年度第 4 回行政観光戦略会議（2019 年 3 月 5 日）

東北 6 県・新潟県・仙台市の観光担当課長クラスの方々と、第 7 回理事会付議事項となる 2019 年度事業方針・事業計画・収支予算案などについて意見交換を行った。

（4） 東北観光戦略会議

① 第 5 回東北観光戦略会議（10 月 24 日）

経済団体、企業の実務責任者、東北 6 県、新潟県及び仙台市の観光協会・連盟の代表の方々と、2018 年度上期事業報告、2019 年度事業計画骨子のほか、2018 年台湾感謝祭、2019 年度トップセールス事業などにつき意見交換を行った。

② 第 6 回東北観光戦略会議（2019 年 3 月 7 日）

経済団体、企業の実務責任者、東北 6 県、新潟県及び仙台市の観光協会・連盟の代表の方々と、第 7 回理事会付議事項となる 2019 年度事業方針・事業計画・収支予算案などについて意見交換を行った。

（5） 6 誘致協・6 旅木連会議

① 第 3 回 6 誘致協・6 旅木連会議（11 月 2 日）

各旅行会社の旅館ホテル連盟、協力店会の代表者、東北 6 県の観光誘致協議会の代表者の方々と、2018 年度上期事業報告や 2019 年度事業計画（骨子）、北海道支援等について、意見交換を行った。

② 第 4 回 6 誘致協・6 旅木連会議（2019 年 3 月 13 日）

各旅行会社の旅館ホテル連盟、協力店会の代表者、東北 6 県の観光誘致協議会の代表者の方々と、第 7 回理事会付議事項となる 2019 年度事業方針・事業計画・収支予算案などについて意見交換を行った。

2. 情報発信の強化

（1） 東観推ウェブサイトの刷新

東観推の多言語ウェブサイト（英・繁・簡・韓・タイ）の刷新とあわせて、日本語ウェブサイトも刷新。多言語ウェブサイト同様、旅行者のアクションフェーズ（「認知・興味喚起」～「選好・旅行手配」～「滞在」）を踏まえたワンストップ型観光プラットフォームを構築した。



BtoC グルメページ



BtoB 法人向けトップページ

(2) SNS による観光情報発信の強化

2018 年 10 月より、Facebook を活用した東北の観光情報の定期的な発信に取り組んでいる。

東観推の Facebook ページをフォローしている東北観光のファンに対してタイムリーに情報発信を行うとともに、フォロワーを通じた情報の拡散を図ることにより、効果的な情報発信に努めている。

2018 年 12 月に投稿した記事では、フォロワー数の 6 倍にあたる Facebook ユーザーにリーチする(情報を届ける)など、取り組みの成果が現れている。



Facebook での情報発信ページ

(3) 会員に対する情報発信の強化

2018 年 10 月より、東観推の会員向けの情報誌「旅東北 NEWS」を月刊で発行開始した。会員との連携強化に向け、毎月の東観推の活動報告だけでなく、会員が今後参加いただける海外イベントやセミナー等の情報も掲載している。



「旅東北 NEWS」Vol.1～6

(4) 講演・執筆・取材対応関係

観光関係団体、大学、経済団体等からの依頼により、小県会長、紺野専務理事他が講演を行った。また、新聞、機関誌の取材協力や寄稿を行い、東北観光における広域連携の重要性、東観推の目指す方向性や事業紹介等の情報発信に努めた。

【講演】

- ・「全旅連東北ブロック協議会」講演 (4 月 11 日)
- ・「東北大学経済学部寄付講座」講演 (4 月 18 日)
- ・「東北六県商工会議所連合会幹事会」講演 (5 月 7 日)
- ・東北地方整備局「管内業務報告会」特別講演 (6 月 26 日)
- ・「東北の観光案内所のネットワーク化事業」第 1 回研修会 (6 月 28 日)
- ・「泉友会」講演 (7 月 4 日)
- ・「ツーリズム EXPO ジャパン 2018」VJTM セミナー講演 (9 月 21 日)
- ・「観光案内所スタッフスキルアップに向けた研修会」講演 (9 月 27 日、28 日)

- ・ 岩手県立大学「JR東日本寄付講座いわて観光地域づくり講座」講演（10月3日）
- ・ 中国蘇州「観光業界フォーラム」にて講演（10月27日）
- ・ 「第二回函館・津軽・秋田広域観光推進協議会」講演（11月26日）
- ・ 「黄金回廊まっふ協賛施設合同会議」講演（1月21日）
- ・ 「平成30年度大崎ブロック商工会青年部講習会」講演（1月24日）
- ・ 「雪と文化をテーマにした観光プロモーション会議」講演（2月1日）
- ・ 「Visit Japan 大使の集い2019in 東北」講演（2月14日）
- ・ 「山形・上山・天童三市DMO研修会」講演（3月14日）

【パネルディスカッション】

- ・ 「新しい東北観光シンポジウム」（6月9日）
- ・ 「交流人口ビジネス活性化懇話会」（7月2日、26日）
- ・ 「インバウンドミニトークライブ in 宮城・東北」（11月16日）

【取材対応・寄稿】

- ・ 「日本経済新聞」掲載（5月1日）
- ・ 「道路建設」（7月号）
- ・ 「とうほく創生Genki プロジェクト」（東北6県7新聞社）掲載（7月20日）
- ・ 仙台商工会議所月報誌「飛翔」新春特別対談掲載（2019年1月号）
- ・ 観光経済新聞「東日本大震災8年特集」（3月16日）

Ⅱ. 海外観光客の誘客促進

1. オール東北の更なる醸成

(1) 第23回北前船寄港地フォーラム及び第3回中日観光大連ハイレベルフォーラム参加（5月25日～27日）

日中国交正常化45周年・日中平和友好条約締結40周年行事となる第23回北前船寄港地フォーラム及び第3回中日観光大連ハイレベルフォーラムに参加し、関係団体との関係構築・強化を図った。

本フォーラムにおける日本からの参加者は約600名。東北においても、秋田県が知事を団長として訪問する等、日本海側を中心に多くの関係者が参加した。



北前船寄港地フォーラム前夜祭



アカシア祭り 開幕式



パネルディスカッション

(2) 中国・大連トップセールス事業（8月23日～24日）

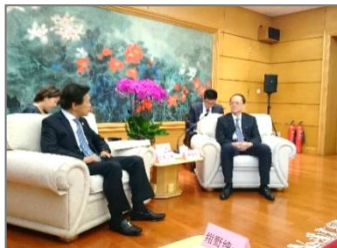
中国のなかでも、経済交流の実績がある大連に対し、東北の官民トップが一体となって訪問し、大連の行政関係者や観光関係団体及び航空会社の代表と交流を行うことにより、東北観光の露出を高め、相互交流の活性化に向けた関係性を構築するとともに、過去に運航していた仙台～大連線の復便に向けた航空会社への働きかけや、各県への新規路線誘致・チャーター便運航の実現に向けた後押しを行った。

① 政府機関への表敬・会見（8月23日）

小縣会長より東日本大震災に対する支援への御礼と、訪東北旅行の拡大に向けた協力及び国際定期便等の誘致に向けた要請を行った。



中国共産党大連市委員会表敬



大連市人民政府表敬



遼寧省長表敬

② 大連・日本東北交流懇談会2018（8月24日）

第一部では、小縣会長より相互交流の拡大に繋がる連携強化をお願いするとともに、紺野専務理事推進本部長より訪東北に関する概要説明を行った。あわせて、各県知事、副知事より観光コンテンツの紹介及び各県のトピックス等の説明を行い、訪東北旅行の拡大に向けた協力の要請を行った。第二部では、東北の伝統芸能の披露や懇談を通じて相互理解と関係構築・強化を図った。



小縣会長



東北各県の知事・副知事



第二部夕食会

(3) 中国大連における訪日旅行プロモーション事業（8月25日～26日）

大連の一般消費者に向けたイベントを日本政府観光局（以下、JNTO）との共催により実施し、オープニングセレモニーではトップセールス事業に参加された各県知事・副知事等の出席のもと、JNTO 清野理事長による主催者挨拶、東観推小県会長の代表挨拶に続いて、さんさ踊りによるオープニングアクト等を行った。なお、イベントでは花笠踊りや津軽三味線、各県キャラクターによるステージパフォーマンスに加え、東北の観光素材の紹介及び旅行会社による東北旅行商品の販促などを行い、ショッピングモールを訪れる地元消費者に東北の魅力を伝えた。



一般消費者向けイベント
（オープニング）

(4) 日本東北遊楽日 2018 だいすき♡とうほく（12月14～16日）

台湾の一般消費者向けに、東北への旅行の需要喚起を図ることを目的に東北旅行の魅力をPRするイベントを開催した。会場内では各ブース出展者が趣向を凝らし、東北観光PRを行ったほか、野外ステージでは秋田竿燈演技等の伝統芸能を中心にパフォーマンスを行い、13万5千人の来場でにぎわった。



フォトセッション



野外ステージ（竿燈）



東観推ブース

2. 広域周遊観光促進のための新たな観光地域支援事業

(1) 多言語電話通訳サービスの提供

東北6県及び新潟県において、訪日外国人の対応に関する不安を取り除くため、多言語電話通訳サービスを展開した（2018年度末時点の利用登録：2,685施設）。

外国人旅行者の安全確保や事件・事故等への迅速かつ適切な初動対応を図るため、11月28日には福島県警察本部と、2月26日には宮城県警察本部と、「外国人観光客等の安全確保への相互協力に関する覚書」を締結し、福島県内及び宮城県内のそれぞれ252カ所（計510カ所）の警察署・派出所などを新たに登録した。



福島県警察本部との締結式



宮城県警察本部との締結式

(2) 海外でのフリーマガジン発行・配布

ターゲット5カ国（台湾・香港・シンガポール・タイ・マレーシア）にて発行した春・夏号について、日系の飲食店・スーパーのほか、現地旅行博などで計21,000部配布した。



WAttention 春・夏号（英語版）

(3) 多言語ウェブサイトの刷新（英・繁・簡・韓・泰）

東北観光に対する興味・関心を喚起し訪問意欲の向上を図るとともに、宿泊・交通など旅行に必要なサービスの予約検索までできるワンストップ型の観光プラットフォームとするため、多言語ウェブサイトの刷新を図った。旅行者のアクションフェーズを意識するとともに、訪日外国人旅行者の移動実態を踏まえたモデルコースを紹介するなど、外国人旅行者の目線に立ったコンテンツ制作を行



新多言語ウェブサイトのトップ画面

った。また、海外エージェントを対象としたB to Bページを新たに開設し、情報発信力の強化を図った。

(4) 観光人材育成研修会（フェニックス塾）の開催

第三期生 38 名を対象に、地域における観光振興策を企画・立案する構想力と、それを実践する行動力をもった観光人材の育成を目的に観光人材育成研修会（フェニックス塾）を実施した。今年度は東北各県での開催に加え、北海道胆振東部地震からの復興支援の観点から第 5 回を函館市にて開催した。

なお、1 月には第一期生（39 名）・第二期生（34 名）を対象とした合同勉強会を開催し、フェニックス塾修了者間の更なるネットワーク強化を図った。



山形開催時のセミナー



函館開催時のエクスカーショ



郡山開催時ワークショップ



第三期フェニックス塾修了式

	開催日・場所	内 容
入塾式 第 1 回	6 月 25 日 仙台市	・主催者挨拶（東観推 小縣会長） ・入塾証の授与 ・講演「東北観光推進機構の取り組み」（東観推 紺野専務理事推進本部長） ・オリエンテーション
第 2 回	7 月 20 日 青森市	・講演「東北の観光を考える～震災からの復興～」（(株)ジェイアール東日本企画 原口代表取締役社長） ・ワークショップ
第 3 回	9 月 13 日 ～14 日 秋田市 大館市	・講演「地域 DMO の果たす役割～世界に通用する魅力ある観光地づくりに向けて～」（日本観光振興協会前理事長、(株)びゅうトラベルサービス顧問 見並陽一氏） ・ワークショップ ・エクスカーショ
第 4 回	10 月 19 日 山形市	・講演「データで見る東北～インバウンドの嗜好や動向調査等から分かること～」（観光庁国際観光課長 伊地知英己氏） ・ワークショップ
第 5 回	11 月 29 日 ～30 日 函館市	・講演「2030 年観光の未来を予測する～2030 年観光の未来需要予測研究より～」（(株)リクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンター長 沢登次彦氏） ・ワークショップ ・エクスカーショ
第 6 回	12 月 18 日 新潟市	・講演「TOHOKU の魅力の届け方～デジタルマーケティング根本的活用のご提言～」（グーグル(同) 広告営業本部観光立国推進部長、内閣官房クールジャパン地域プロデューサー 陳内裕樹氏） ・ワークショップ
一期生 二期生 合同勉強会	1 月 18 日 東京都	・エクスカーショとグループディスカッション「東北の認知度について」 ・勉強会「海外デジタルマーケティングについて」（(株)インフォキュービック・ジャパン 河合真志氏、難波公孝氏）
第 7 回	2 月 1 日 郡山市	・講演「ユーザー発信時代のトリップアドバイザーの役割と活用」（トリップアドバイザー(株)代表取締役 牧野友衛氏） ・ワークショップ

第8回 修了発表会 修了式	3月14日 仙台市	・塾生によるグループ発表「更に東北にインバウンドを増やすための提言」 一年を通じて取り組んできたテーマに対し、6つのグループからの施策提言発表 ・修了式
---------------------	--------------	--

(5) 着地型多言語 ICTシステムの拡充

多言語ウェブサイト構築に連動し、コンテンツ情報の追加、多言語化、またインターフェースの改修に向けたシステム改修を進めている。

(6) TOHOKU ファームステイの推進

民泊事業者を対象としたマーケティング～商品造成～販売までを支援するワークショップ（全3回）を弘前、遠野で実施したほか、各地域の特徴を活かした着地型体験（農業体験、ねふた絵付け体験、刺し子体験等）を宿泊とセットで25商品造成し販売開始。パンフレットを作成し旅行博等で配布したほか、民泊予約サイト「STAY JAPAN」において特集ページを3言語（日本語・英語・繁体字）で作成し周知を図っており、既に100人を超える外国人より予約が入っている。



パンフレット Stay Japan サイト

(7) 東北広域パンフレットの作成・配布

東北の旅行目的地としての魅力をアピールするため、ナイトタイムエコノミー、モーニングタイムエコノミーをコンセプトテーマとしたパンフレットを作成し、台湾におけるプロモーション等で配布した。

また、外国人旅行者向けの定額商品として、仙台市の国分町街づくりプロジェクトと連携し、地元の料理や酒を楽しめる「MIYAGI DISH」を1,000～1,500円程度で約30商品造成し、またガイド付きツアーも5商品造成し、1月から販売開始した。



パンフレット TOHOKU DISH.COM

(8) 東北地域におけるバスを活用した周遊促進

東北域内の共通フリーパス「TOHOKU HIGHWAY BUS TICKET」の本年度事業計画について、幹事会で協議し、訪日外国人旅行者のニーズにあった商品への抜本的な改修と販促PRの強化を図ることとしている。商品改修については、券種は2日券・3日券とし、対象路線は東北域内の空港路線、主要観光地への路線、路線バス、成田路線（次年度以降）を含める方向で調整を行っている。

(9) 「日本海美食旅（ガストロノミー）」プロモーション

2019年 新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン開催を契機に、新潟県全域と山形県庄内エリアの「米」「酒」など食の魅力を中心に、食を産み出した北前船などの歴史、文化、人などの背景を合わせて発信する。タイでFITフェアに参加し、来場者へのPRを行うとともに、12社と商談し、商品造成に向けたセールスを行った。

ポスターは、FITフェア、台南旅行博（台湾）やCITM上海（中国）などに掲出し、約29万人が接触した。



「日本海美食旅」ポスター

(10) 東北広域マーケティングリサーチ事業

① 域内宿泊施設調査

東北6県及び新潟県の宿泊施設1,505先を対象に、宿泊施設側から見た外国人旅行者の動態、嗜好等についてアンケート調査を実施した。

② 訪東北外国人動態調査

仙台空港等の主要ゲートウェイにおける対面調査及び域内の主要宿泊施設におけるWebアンケートにより、訪東北外国人旅行者に対する基本属性、移動手段、消費額及び満足度等の調査を実施した。

③ DMO 施策検証調査

域内 DMO に対する組織基盤、各種施策等の活動状況及びマーケティングリサーチの実施状況等について調査を実施。新潟県を含む域内 20DMO より回答があり、うち地域連携 DMO を中心に 10DMO についてヒアリングを実施した。

(ヒアリング実施 DMO：秋田犬ツーリズム、福島県観光物産交流協会、青森県観光連盟、さんりく基金、世界遺産平泉・一関 DMO、インアウトバウンド仙台・松島、山形県観光物産協会、おもてなし山形、気仙沼地域戦略、新潟県観光協会)

(11) 広域二次交通リサーチ事業

東北周遊観光のネックとなっている二次交通の課題解決に向け、域内の二次交通における交通情報のデジタル化や多言語化の取り組み及びフリーパスや割引チケット等の各種取り扱いについて調査を実施。調査方法はインターネット等によるデスク調査に加え、外国人によるモニタリングを実施し、外国人目線での受入環境や利便性等について調査を行った。

(12) 冬季広域周遊顧客満足度・消費額・動向動態調査事業

八幡平 DMO との連携事業として実施。東北の冬の観光として、いち早く誘客に取り組み一定の効果を上げている安比リゾートでの調査を通じ外国人のウインタースポーツでの来訪者の行動特性や滞在・移動手段等の把握を行い、満足度や消費額等の調査を実施し、課題抽出を行う。また、北海道・北東北エリアでの JR や飛行機等を利用した動向動態調査を実施、移動手段と周遊の状況を把握する。

結果として広域の基礎資料として今後の商品開発や北東北エリアでの誘客戦略・事業実施への貢献とともに、広く域内関係者へ調査内容から読める東北全体のスノーリゾートへの誘客課題の把握と次年度以降のウインターリゾート誘客施策展開へ活用する。

3. 訪日プロモーション地方連携事業

(1) 台湾

① 台北国際観光博（ITF2018）出展事業（11月22日～26日）

台湾最大級の旅行博である台北国際旅行博（ITF2018）に出展し、一般消費者に対して東北の冬の魅力を中心に PR するとともに、日本観光振興協会主催の商談会において、現地旅行会社に対して旅行商品造成・販売に必要な情報を提供し、さらなる誘客促進を図った。



商談会



ステージイベント（各県PR）



商品説明会

② 東北プロモーション in 台湾 2018（12月11日～12日）

訪日リピーターが増加する台湾市場において、新規商品造成を望む現地旅行会社と訪日販路拡大を図る日本側観光施設等事業者とのマッチング機会として商談会を設定し、商品造成及び販売の促進を図った。なお入場者数は過去最高の 253 人を記録した。



東北セミナー



商談会



日本側参加者

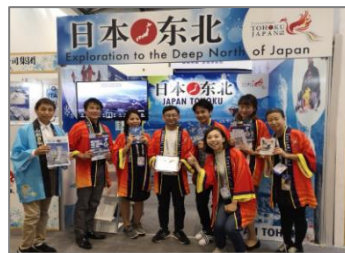
(2) 中国

① 中国主要都市における東北誘客プロモーション事業【北京】（9月19日～22日）

北京で開催される国際冬季運動博覧会（WWSE 2018）に出展し、東北への誘客に繋がるよう、スノーリゾートを中心にアフタースキーを絡めた東北ならではの冬の魅力をプロモーションすることで東北の認知度向上と誘客促進を図った。



会場の様子



東北ブース



ブースの様子

② 中国主要都市における東北誘客プロモーション事業・広州圏（12月10日～12日）

中国主要都市における東北プロモーション事業の一つとして広州圏（広州市、深圳市）の旅行会社にセールスコールを実施し、東北への旅行商品の造成・拡大及び販売促進を図った。



オール東北によるセールス



深圳の旅行社



広州での商談

③ 中国主要都市における東北誘客プロモーション事業・上海（1月17日～19日）

中国主要都市における東北プロモーション事業の一つとして上海サポートデスクとの連携による旅行会社向けと現地一般消費者向けのセミナーを各々開催し、1月30日に新規就航した花巻～上海便や桜を中心とした春の魅力を発信することで東北への誘客を図った。

また、大手旅行会社のセールス担当向けにも東北観光に関するセミナーを別途開催し、既存の東北商品の販売促進を狙った。加えて、JNTO 上海が主催する旅行会社向けのスノーレジャーPR会に参加し、東北のスキー場やスノーアクティビティ環境等の認知度向上を図った。



東北セミナー（B to B to C）



東北セミナー（B to B）



東北セミナー（B to C）

(3) 韓国

① 韓国市場におけるトレッキング誘客プロモーション事業（AGT、メディア招請）（5月29日～6月3日）

韓国内で人気の高い登山・トレッキングを通じた旅行者の増加に向けて、旅行会社7社及びメディア1社を招請し、旅行商品の造成や広告宣伝による販売促進、一般消費者向け情報発信を一体的に行い、東北への誘客促進を図った。



宮城オルレコース（宮城県）



八幡平トレッキング（岩手県）



白神山地トレッキング（青森県）

② 韓国市場におけるトレッキング誘客プロモーション事業（AGT・メディアへのセールスコール）

（7月18日～21日）

5月に招請した旅行会社及びメディアにおける旅行商品の造成やメディアへの掲載について、セールスコールの実施により状況を確認するとともに、改めて東北への誘客促進を図った。

（4）香港

① 香港市場における東北誘客プロモーション事業（メディア招請）（4月20日～27日）

20～40代の女性を中心とした訪日個人旅行リピーターを訴求ターゲットとして、香港二大雑誌社の「U Magazine」を招請し、桜のほか、温泉や自然景観などの「癒やし」「リラックス」を体感できるコンテンツを取材し、雑誌掲載（5月25日発売）を通じて東北の魅力を発信した。



伊達武将隊と政宗公像（宮城県）



八幡平アスビーテライン（岩手県）



弘前公園（青森県）

② 香港市場における東北誘客プロモーション事業（10月19日～23日）

香港2大旅行雑誌社の1つであるU Magazine社が開催する「Smart Travel Carnival」に出展し、現地の一般消費者に向けて冬を中心とした東北の魅力をPRし、東北の認知度向上及び風評払拭による誘客促進を図った。あわせて、現地旅行会社等を訪問し、昨年度実施したトップセールスへの協力のお礼を述べるとともに、東北の状況や香港市場の動向等について情報交換を行った。



Smart Travel Carnival 日本東北ブース

（5）タイ

① タイ・プロモーション事業（タイ国際旅行博（TITF#23）出展等）（8月7日～12日）

タイで開催された旅行博覧会（TITF#23）に公益財団法人仙台観光国際協会と共同で出展し、隣接する青森県ブースと連携して、旅行関係者及び一般消費者に対し東北の魅力を発信するとともに、現地旅行エージェント8社へセールスコールを行い旅行商品の造成を働きかけることにより、タイにおける東北のさらなる認知度向上及び誘客促進を図った。



セールスコール



ブースの様子



TTAA 役員の皆様と

② タイ市場における東北誘客プロモーション事業（TITF#24出展等）（2月11日～18日）

タイ・バンコクで開催された旅行博覧会に出展し、旅行関係者及び一般消費者に対し東北の春の魅力を発信し、タイ最大の旅行シーズンである4月中旬のソンクラーン休暇に向け、東北への誘客促進を図った。

また、旅行博覧会に合わせてタイ旅行業協会（Thai Travel Agents Association：TTAA）が開催した商談会に参加するとともに、現地旅行会社へセールスコールを行い、東北への旅行商品の造成及び送客に向けた働きかけを行った。



TTAA 主催商談会



仙台・東北ブース



セールスコール

(6) シンガポール

① シンガポール市場における東北誘客プロモーション事業（旅行エージェント招請）（4月25日～29日）

シンガポールの旅行会社3社を招請し、各々の季節に楽しめるコンテンツを中心に、東北の視察・体験を通じて旅行商品の造成を図った。



松島観瀾亭抹茶体験（宮城県）



角館武家屋敷散策（秋田県）



田舎館村刀匠体験（青森県）

② シンガポール市場における東北誘客事業（B to Cセミナー開催等）（8月24日～26日）

4月に招請した旅行会社等と連携したB to CセミナーをJR東日本が運営する「JAPAN RAIL CAFE（JRカフェ）」で開催し、現地一般消費者に対して東北観光の魅力の発信し、旅行商品の販売を促進するとともに、現地旅行会社5社へセールスコールを行い旅行商品の造成を働きかけることにより、東北の認知度向上及び誘客促進を図った。



セールスコール



JRカフェ



B to Cセミナー

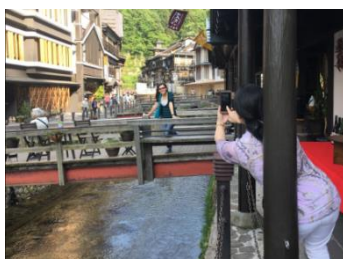
(7) マレーシア

① マレーシア市場における東北誘客プロモーション事業（旅行エージェント招請）（6月23日～27日）

マレーシアの旅行エージェント2社を招請し、銀山温泉や中尊寺など、東北の主要な観光地の視察・体験やムスリムフレンドリーな食事の提供を通じて旅行商品の造成を図った。



蔵王（山形県）



銀山温泉（山形県）



狢鼻溪（岩手県）



中尊寺（岩手県）

② マレーシア市場における東北誘客プロモーション事業（11月22日～24日）

6月に招請を行ったHello Holidays及びGolden Tourworld Travelと連携し、現地の一般消費者に向けて冬を中心とした東北の魅力をPRするセミナーを開催し誘客促進を図った。あわせて、現地旅行会社等を訪問し、東北旅行商品の状況やマレーシア市場の動向等について情報交換を行った。



セールスコール

（8）オーストラリア

① オーストラリア市場における東北誘客事業（5月19日～23日）

冬の誘客を目的として、シドニーで開催された旅行博（Snow Travel Expo2018）に出展し、東北の冬の魅力をPRし、東北の認知度向上や旅行商品の造成を図った。あわせてJNTO主催の商談会・セミナーに出席するとともにセールスコールの実施を通じた認知拡大を図った。



旅行博



セールスコール



商談会

（9）SNS活用による情報発信

個人旅行者向け情報発信や相互交流に加え、マーケティング調査を兼ねて、SNSを運営した。

対 象	名 称	ページいいね数（3月末時点）
韓 国	일본 도호쿠 여행（日本東北旅行） 【Facebook】	33,764人 （前年度末比 1,752人増）
中 国	日本東北玩乐（遊樂）GO!（日本東北観光推進機構公式微博） 【微博（ウェイボー）】	168,313人 （前年度末比 59,763人増）
英語圏	Tohoku Tourism 【Facebook】	190,254人 （前年度末比 32,542人増）
イスラム圏	Enjoying Tohoku Food for Muslims and Vegetarians 【Facebook】	144,550人 （前年度末比 26,310人増）

4. 重点市場及び推進市場に係る更なる取組

（1）台湾市場における現地旅行会社と連携した東北誘客プロモーション事業（6月8日～11日）

重点市場である台湾において更なる市場拡大を目的として、台湾中・南部地域の現地有力旅行会社と連携した東北観光セミナーを開催し、各社の具体的な旅行商品の説明を行うとともに、現地旅行会社へセールスコールを実施し東北への誘客促進を図った。



セールスコール（高雄市内）



セミナー（高雄市内）



セミナー（台中市内）

5. 東北観光復興対策交付金事業

東北6県及び仙台市が連携して実施する6事業について、事務幹事（岩手県、宮城県、山形県、仙台市）が担う各県等の意見集約や受託事業者との連絡調整等を東観推が行い、事業の円滑な実施を支援した。

(1) 各事業の取組状況

① 東北広域マーケティング事業

【事業概要】

マーケティングに基づく施策展開を図るため、東北広域でのリサーチ、効果検証を行うとともに、マーケティング人材の育成を図る。

【取組状況】

ア マーケティングリサーチ

訪東北外国人の消費動向や宿泊統計などのインバウンド基礎情報調査、モバイル空間統計を活用した動態調査、リピーターに対する調査など、各種調査について概ね集計を完了し、訪東北外国人のトレンドや動態について分析。結果については、2019年6月26日に報告会を実施予定。

イ マーケティング研修会

域内の観光関係者を対象に、マーケティングリサーチの状況を踏まえ、東北観光を取り巻く新たな潮流や旅行先として東北を選択してもらうための手法等について、研修会を開催した。



東北広域マーケティング研修会

② デジタルコンテンツを活用した誘客促進事業

【事業概要】

過年度事業で製作した四季のデジタルコンテンツを活用し、誘客時期に合わせた動画広告配信や販促サイトへの誘導等により、更なる東北の認知度向上と来訪需要の喚起を図る。

【取組状況】

ア 東北への誘客を促進する施策

特設サイト「Tohoku Japan」内に、10月1日から冬コンテンツの販促ページ（対象市場：台湾・中国・タイ・韓国・豪州）を公開し、特集記事を順次掲載した。

イ PR動画を活用した情報発信

YouTube及びTencent Videoにおいて、10月1日から冬動画の広告配信を実施し、動画視聴者を特設サイト及び販促ページへ誘導した。

ウ PR画像を活用した情報発信

特設サイト及び販促ページへの誘導のため、過年度事業で取得したリマーケティングリスト等を活用したGoogle AdWordsディスプレイネットワーク広告（GDN）を実施した。また、TripAdvisor閲覧者のうち、日本の情報を調べている訪日見込層に対して広告配信を継続実施した。

エ 東北への誘客促進に資する取組

訪東北の可能性が高い見込み客層へのアプローチとして、東北の地名や販促ページに関連するキーワードを検索した際に検索結果に特設サイトを広告掲出する検索連動広告を実施した。

③ ソーシャルメディア等を活用した誘客促進事業

【事業概要】

東北来訪の動機付けとなる口コミ投稿数の増加を図るため、外国人旅行者に対し口コミ投稿を促進する取組を実施するとともに旅行者が口コミを投稿しやすい環境を整備し、東北の認知度向上誘客促進を図る。

【取組状況】

ア 口コミ投稿を促進する取組（主に旅行者向け）

Ctripサイト及びTrip Advisorサイト内に東北の特集ページを制作し、10月までに公開したほか、9月に中国人インフルエンサーを3名招請し、各県の「ネクスト・トレンド・スポット」として選定したスポット（＝有名スポットから誘客できるフォトジェニックな観光スポット）を中心に取材し、一部はWeibo

にて写真やLIVE 動画で発信した。

また、Trip Advisor サイト及びCtrip サイト内に公開している東北の特集ページへの閲覧誘導を図るため、サイト内広告やGDN 広告を実施したほか、Ctrip 公式WeChat アカウント上で口コミ投稿キャンペーンを紹介し、Ctrip 上の投稿を促進した。また、アメリカ・オーストラリアのインフルエンサーを招請し、特集ページの紹介スポットを中心にSNS (Instagram) で発信した。

イ 口コミ投稿の収集環境の整備

外国語の口コミの投稿増加に効果的と見込まれる施設等を「重点取組スポット」として選定（計 354 箇所）し、同スポット等に配布する口コミ投稿促進ツール（口コミ投稿呼びかけカード、口コミ収集スポットお知らせツール等）を制作するとともに、中国最大の口コミサイト「大衆点评」への施設登録サポート事務局を開設した。また、9 月 3 日～21 日に、各県において口コミサイト活用セミナーを開催した。（参加者総数：334 名）

外国語の口コミの投稿増加に効果的と見込まれる施設等を「重点取組スポット」として選定し、口コミ投稿促進ツール（口コミ投稿呼びかけカード、口コミ収集スポットお知らせツール等）を配布したほか、中国最大の口コミサイト「大衆点评」への施設登録サポート事務局を開設し、順次、登録補助作業を実施している。

ウ 口コミ動向の把握・分析

「重点取組スポット」の環境整備や口コミの蓄積状況を月次ごとに把握している。



フィギュアスケートモニュメント（仙台市）のLIVE 配信動画は累計 130 万回視聴を記録



口コミ投稿呼びかけカード

④ 旅行会社等と連携した誘客促進事業

【事業概要】

過年度事業で招請した旅行会社へのフォローアップ支援を行い、旅行商品の造成・販売の活性化により、東北への誘客促進を図る。

【取組状況】

ア 販促ツールの作成

事業対象 6 市場（台湾、中国、香港、韓国、タイ、ベトナム）の現地旅行会社店舗を活用した東北 PR イベントで使用するツールとして、東北の四季の魅力を視覚的に訴求するデザインでポスターを制作したほか、フォローアップセールスにおいて活用していくため、2 種類の枡（五合枡、三勺枡）を制作し、9 月に現地コーディネーターへ発送した。

現地一般消費者が旅行商品の購入前に活用可能なガイドブックを作成し、10 月から現地旅行会社へ配布するなどして情報発信している。



ガイドブック

イ 現地コーディネーターと協業によるフォローアップセールス

協業する現地コーディネーターによる旅行会社へのセールスコールを継続的に実施するとともに 11 月には前月までのフォローアップセールスの結果を踏まえ、共同広告等の対象とする旅行会社の選定を開始し、東北の旅行商品造成に積極的な旅行会社を中心にセールスコールを実施した。



フォローアップセールス

ウ レンタカープロモーション

訪日外国人向け観光サイト「Japan-guide.com」に東北ドライブの魅力を発信する記事を掲載したほか、「冬の東北と着地コンテンツ整備事業」で作成したレンタカーパンフレットを用いた現地旅行会社へセールスコール等を継続的に実施している。

エ トラベルマート

（11 月 13 日～14 日 新潟市 [EAST ASIA]、11 月 27 日～28 日 神戸市 [ASEAN INDIA]）

新潟市と神戸市で開催されたトラベルマート (VJTM) に出展し、当事業で作成したガイドブック等販促ツールを用い、東北コンテンツの紹介を行うとともに、過去に招請した旅行会社に対して東北商品の造成を促した。



商談会

⑤ 冬の東北と着地コンテンツ整備事業

【事業概要】

冬の東北の誘客促進及びレンタカーの利用促進に資する受入環境を整備しインバウンドの拡大を図る。

【取組状況】

ア 観光コンテンツの受入環境整備

受入環境の整備や着地型旅行商品の造成を販売（OTA 掲載・セールスコール）までつなげることを目的として、各県において、観光事業者を集めた全4回のセミナー・ワークショップを開催した。

イ 旅行商品の販売促進等

8月に開催したワークショップも踏まえ、9月2日～6日に台湾の旅行会社13社、中国の旅行会社15社へセールスコールを実施したほか、各県ごとに専門サポートスタッフを配置し、セミナー・ワークショップの事前、事後における参加者のフォローアップを通じて旅行商品を造成している。なお、10月から台湾と中国の旅行会社への2回目のセールスコールを実施したほか、各県ごとに専門サポートスタッフを配置し、セミナー・ワークショップの参加者の事前・事後のフォローアップを通じて着地型旅行商品の造成を支援した。

ウ レンタカー事業者等との連携取組、活用等

外国人の方がレンタカーを運転していることを周囲のドライバーに知らせることを目的とした東北統一のステッカーを2,000部作成し、レンタカー協会を通じてレンタカー会社に配布したほか、ドライブ冊子を繁体字、英語版各1万部、韓国語5千部を作成した。レンタカー協会、事業者へ発送したほか、今後交付金によるプロモーション事業や訪日プロモ事業で活用していく。

上記の制作物のほか、レンタカー事業者の窓口対応の向上のための指差しツール等について、レンタカー東北周遊インバウンド観光促進協議会等を通じて活用を促進している。



作成したステッカー

⑥ 東北太平洋沿岸等における観光復興対策事業

【事業概要】

東日本大震災により被災した東北太平洋沿岸地域の受入態勢の整備やプロモーション事業等の展開により当該地域への入込拡大を図る。

【取組状況】

ア インセンティブツアー関係者・旅行会社等の招請

インセンティブツアーの関係者や旅行会社を対象に、南東北コース（8月1日～4日）、北東北コース（8月26日～29日）において招請を実施した。



震災遺構仙台市立荒浜小学校



三陸鉄道震災学習列車



八戸・みろく横丁

イ 台湾からの教育旅行関係者等の招請（9月5日～8日）

台湾より教育旅行関係者7名（高校の校長等5名及び旅行会社2名）を招請し、宮城県の太平洋沿岸地域の観光地等の現状を視察した。また、今後の学校交流の拡大に向けて、市内の学校視察を行うとともに、仙台市内において宮城県内の高校の校長等と意見交換会を実施した。



仙台街歩き



学校視察



意見交換会

ウ 語り部ガイド研修会の実施（9月14日）

東日本大震災の経験や教訓を伝承する語り部活動に携わる関係者36名を対象に、インバウンドを含む聞き手の立場を知ることによって防災観光の魅力的な素材としての語り部のあり方等を考察するとともに、各地における語り部活動の相乗効果に繋がるよう参加者同士の広域連携を推進することを目的に研修会を実施した。



事業概要説明



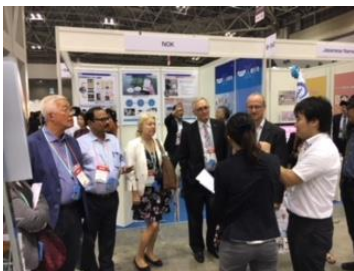
ホテル観洋の語り部バス体験



グループ討議

エ インバウンド・観光ビジネス総合展への出展（9月20日～21日）

東北太平洋沿岸地域の観光コンテンツの魅力を国内外に向けて発信するため、ツーリズム EXPO JAPAN 2018 と同時開催されたインバウンド・観光ビジネス総合展にブースを出展した。9月21日にはVIJIT JAPAN Travel & MICE Mart 2018に参加した海外バイヤーに対し、対象地域の魅力をPRしたほか、本事業の招請に参加し、実際に対象地域を訪れた外国人ライターによるプレゼンテーションを行い、外国人の目線から見た対象地域の魅力について発信した。



海外バイヤーへの説明



出展ブースの様子



外国人ライターによるプレゼンテーション

オ 「ぼうさいこくたい2018」への出展（10月13日～14日）

東北太平洋沿岸エリアにおいて実施した各種調査結果や、9月に開催した語り部ガイド研修会の成果等について共有を図るため「ぼうさいこくたい2018」に出展した。本事業で製作したパンフレット等を紹介するポスターブースには山本防災担当大臣が視察に訪れ、事業成果等について説明した。また、プレゼンテーションセッションでは約50名の来場者に対し、取組紹介をはじめ、風評被害実態調査等の結果報告、語り部ガイド研修会の成果等を発表した。



山本防災担当大臣によるポスターブース視察



プレゼンテーションセッション

(2) 各種会議の開催

① 2017 年度広域連携事業の報告会を開催（4 月 25 日）

2017 年度の事業成果を各県・仙台市と共有するとともに、2018 年度事業の進め方等について意見交換を行った。

② 交付金事業者横断連絡調整会議（7 月 4 日）

各事業間の連携・調整による効果的な事業展開に向けて、各事業の受託者間の情報共有及び意見交換を行った。

③ 交付金キックオフ報告会議（7 月 25 日）

3 年目となる交付金事業をより高める事業とすることを目的に、全事業を横断的に取り組む旨を説明のうえ、本年度の各事業の進め方について各県市との共有及び意見交換を行った。

④ 中間報告会の開催（11 月 6 日）

連携する各県及び仙台市に対し、本年度の交付金事業の中間報告及び 2019 年度の交付金事業案に関する説明、意見交換を行った。

⑤ 担当者会議（2 月 13 日）

連携する各県及び仙台市に対し、本年度の交付金事業の実施状況報告及び 2019 年度の交付金事業の情報共有を行った。

6. その他 主に海外からの誘客促進に資する取組

(1) 独立行政法人国際観光振興機構（日本政府観光局、JNTO）との連携事業

① VISIT JAPAN Travel & MICE Mart 2018 (VJTM)（9 月 20 日～21 日）

JNTO が主催する VJTM に参加し、海外旅行会社 20 社と商談を行った。
また、VJTM 終了後には、南東北への JNTO 主催のファムトリップが設定された。



商談会の様子

② JNTO マーケティング研修会（11 月 15 日）

東北域内の観光関係者約 50 名を対象に開催された JNTO のマーケティング研修会（テーマ：「欧米豪市場向けのプロモーション」「デジタルマーケティング」「釜石ワールドカップ対応」等）に協力し、東北における訪日インバウンドプロモーションの高度化を図った。

(2) その他プロモーション

① マレーシアからの東北チャーター便ツアーの造成に向けたファムツアー（1月20日～25日）

マレーシアの大手旅行会社 Apple Vacations より、次年度チャーター便によるツアーの造成に向けたファムツアーの実施について協力依頼があったため、東北 6 県と東観推による広域連携事業として実施した。



ファムツアーの様子

② フィリピン市場における東北誘客プロモーション事業（Travel Tour Expo 2019 (TTE) 出展等）

（2 月 8 日～11 日）

フィリピンのマニラで開催される旅行博覧会（主催：フィリピンの旅行会社協会）に初めて出展し、旅行関係者及び一般消費者に対し東北の観光の魅力を発信するとともに、セールスコールを行い現地の旅行会社に商品造成の働きかけ等を行うことで、フィリピンにおける東北の認知度向上及び誘客促進を図った。



東北ブース

(3) 新たな事業への取組

① 復興庁「新しい東北」交流拡大モデル事業普及・展開事業

2016年度より開始された復興庁「新しい東北」交流拡大モデル事業（以下、「過年度事業」）の効果検証ならびに普及・展開を図り、過年度事業成果の東北での定着、関係者による幅広い活用を目的とする復興庁「新しい東北」交流拡大モデル事業報告会普及・展開事業について企画提案を行い、東観推が事業者として選定されたことから、過年度事業者のヒアリングや事業成果の見える化・プラットフォーム化等を通じ、東北における効果の波及、活用の拡大を図った。

Ⅲ. 国内観光客の誘客促進

1. 教育旅行の誘致促進

(1) 東北教育旅行セミナー

① 北海道、東京開催（7月9日 函館、10日 苫小牧、11日 札幌、12日 室蘭、25日 品川）

北海道からの修学旅行数の拡大ならびに回復が遅れている首都圏からの教育旅行の獲得に向け、学校関係者及び旅行会社教育旅行担当者を対象としたセミナーを開催した。

セミナーでは、防災・震災学習の視点での学習事例や農山漁村体験等について、東日本大震災以降に東北で教育旅行を実施した学校が事例発表を行ったほか、東北6県及び新潟県による東北教育旅行プレゼンテーション、教育旅行相談会等を行い、東北への教育旅行の魅力、動機づけを行った。



学校による事例発表



学校関係者相談会



旅行会社相談会

② 九州開催（11月8日 福岡市）

九州からの修学旅行の拡大に向け、学校や旅行会社の教育旅行担当者等73名を対象としたセミナーを開催した。セミナーでは、東北への教育旅行を実施している学校による事例発表を行ったほか、東北教育旅行の体験・交流に関する取組みのプレゼンテーション、教育旅行相談会を行い、「学び」の場としての東北の魅力を発信した。



主催者挨拶



プレゼンテーション



教育旅行相談会

(2) 教育旅行関係者招請

① 首都圏旅行会社招請（8月8日～10日）

訪東北経験のない首都圏旅行会社社員を招請し、東北の歴史文化や、被災地の現状、震災・防災学習メニュー等の研修、視察を行った。



三内丸山遺跡視察



青森県教育旅行商談会



三陸鉄道震災学習

② 関東地区公立中学校修学旅行委員会招請（8月19日～21日）

関東地区の公立中学校校長及び教育旅行担当者を招請し、グリーンツーリズムや防災学習等、東北ならではのメニューや受入れ環境について視察を行った。



大崎グリーンツーリズム視察



相馬市内備蓄倉庫視察



J ヴィレッジ視察



福島第一原発事前説明

③ 北海道内教育関係者招請（11月20日～22日）

北海道内の旅行会社等の社員（教育旅行担当者）9名を対象に、南東北への教育旅行の誘致拡大を目的とした現地研修を実施した。各訪問先では、実際に修学旅行で利用されるプログラム体験のほか、福島・宮城で開催した教育旅行相談会において両県の教育旅行関係者との商談を行い、東北での教育旅行実施について理解を深めていただいた。



現地研修



教育旅行相談会



参加者の皆さん

（3）教育旅行誘致部会

① 2018年度第1回東北教育旅行誘致部会（5月8日）

2018年度事業計画について意見交換を行ったほか、公益財団法人全国修学旅行研究協会守屋勝利常務理事を講師とする教育旅行セミナー（演題：「新学習指導要領を踏まえた今後の修学旅行の在り方・展望」）を行った。

② 2018年度第2回東北教育旅行誘致部会（3月8日）

2018年度に実施した国内教育旅行関連事業を振り返り、実施内容や事業成果について部会内で共有するとともに、次年度事業計画（案）について議論し、来年度事業をより効果的に実施すべく開催した。

来年度以降、新規市場の開拓や新たな招請（日修協管轄地区）等を実施し、誘致拡大を図っていく。

2. その他 主に国内からの誘客促進に資する取組

（1）ツーリズムEXPO ジャパン2018への出展（9月20日～23日）

「まだ見たことのない東北の四季」をメインテーマに、東日本旅客鉄道との連携ブースにより出展した。ブース内では東北6県及び新潟県のコーナーを設置したほか、各県の協力によるステージイベントを実施するなど、オール東北での情報発信を実施した（来場者数207,000人 前年比約108% 15,400人増）。

また、当日併催されたトラベル&MICE マート2018参加の海外バイヤーに向けて、小縣会長自らが英語によるプレゼンテーションを行ったほか、タイ国政府観光庁副総裁サントー氏が東観推ブースを内覧されるなど、訪日誘客に向けた情報発信を行うことができた。

第4回 ジャパン・ツーリズム・アワードにおいて、観光人材育成を目的に実施した「フェニックス塾」の取り組みが、国内訪日領域の地域部門で入賞した。



タイ観光庁サントー副総裁来訪



ステージイベント



地酒試飲会



岩手県コーナー

(2) 企業・団体とのタイアップによる誘客促進

① 「東北応援！スマイルキャンペーン」の実施（5月15日～7月15日）

会員旅行会社6社旅ホ連、東北6県及び新潟県、東日本旅客鉄道、カード会社9社の協力のもと、対象施設でのクレジットカード利用者を対象に、ペア宿泊券や東北の名産品が当たるキャンペーンを実施した。

第一弾：5月15日～7月15日

第二弾：12月11日～2019年2月24日

(3) 東北歴史文化講座の開催

① 第2回（秋田県、岩手県）

東日本旅客鉄道株式会社と共催で、東北各県の魅力・歴史・文化等の独自性のあるテーマを掘り下げて紹介する「東北歴史文化講座」を、7月21日に東京のサピアタワーにおいて開催した。

	テーマ	講師
第一部 秋田県	古代秋田に轟いた蝦夷の独立宣言 ～東北の運命を分けた元慶の乱を考える～	秋田大学名誉教授 熊田 亮介氏
第二部 岩手県	奥州藤原氏が築いた東北の浄土 ～考古学から掘り起こす平泉文化の姿～	えさし郷土文化館館長 相原 康二氏



会場の様子



講座で配付されたテキスト

② 第3回（山形県、福島県）の開催

第3回の東北歴史文化講座を11月23日に東京都のベルサール秋葉原において開催した。これまでの開催が好評だったため2019年度においては4回に拡大して開催予定。

	テーマ	講師
第一部 山形県	“感じる知性”が導く修験道への扉 ～出羽三山に生きる羽黒山伏の辻説法～	羽黒山山伏 星野 文紘氏
第二部 福島県	古戦場に秘められた会津戦争の真相 ～明治に花咲かせた会津人の義のこころ～	会津ユネスコ協会事務局長 石田 明夫氏



講座会場の様子



星野講師



石田講師



観光案内ブースの様子

IV. その他事業

1. 各種団体との連携

(1) 域内 DMO との会議の設定

① 地域連携 DMO 等との意見交換（4 月～5 月）

関係構築や連携強化に向け、地域連携 DMO 及び各種連携機関等を訪問、意見交換を行った。

② 東北地域日本版 DMO 意見交換会への参画（8 月 31 日）

東北運輸局主催による東北地域日本版 DMO 意見交換会に参加し、東観推と各 DMO との戦略・施策の連携、デジタルプロモーションの推進等の提案を行った。また、今年度において域内 DMO と連携して実施するマーケティングリサーチにかかる情報提供を行った。

③ DMO 会議（11 月 1 日）

東北域内の地域連携 DMO 及び一部の地域 DMO（17 団体）の参加による DMO 会議を初めて開催し、東観推の広域戦略の共有並びに今後の DMO 間の事業連携や情報共有に係る意見交換を行った。

④ DMO 会議分科会（1 月 23 日）

域内の地域連携 DMO 及び一部の地域 DMO（15 団体）の参加のもと、2019 年度における広域周遊観光促進のための新たな観光地域支援事業等での DMO 間の事業連携を目的とした DMO 会議分科会を開催した。

(2) 各種会議の開催

① 海外サポートデスク活動報告会及びマーケティング報告会の開催（7 月 12 日）

上海サポートデスク及び ASEAN サポートデスクによる市場動向説明及び現地での活動報告を仙台国際センターにおいて実施した。併せて東観推によるマーケティング報告を行った。



ASEAN サポートデスク活動報告



上海サポートデスク活動報告



マーケティング報告

② 広域二次交通検討会議の開催（7 月 24 日、8 月 30 日、9 月 26 日）

東北観光復興交付金にかかる広域二次交通の取組みについて、東北運輸局、東北 6 県、仙台市及び交通事業者等との意見交換を行い、交通事業者や通信事業等との連携のもと、Wi-Fi 環境を活用した広域二次交通情報の一元化プラットフォームを構築し、東北域内の交通、観光情報の集約、発信等、旅行者の利便性向上を図ることとした。

(3) タイ国政府観光庁副総裁来訪（6 月 1 日～2 日）

東北とタイとの相互交流の拡大に向け、東観推と「観光に関する相互協力協定」を締結するタイ国政府観光庁よりサンティ・チュディンタラ副総裁を東北絆まつりに招請した。



視察の様子

